

# GMO INTERNET GROUP

## 2025年12月期 通期決算説明会 質疑応答の要約

2026年2月12日に開催した決算説明会において、参加者の皆さまから頂いた質問をまとめたものです。GMOインターネットグループCEOの熊谷、グループ常務執行役員の稲垣より回答させていただきました。なお、一部IR部門にて回答を補足させていただいております。

### ●連結

【Q1】 26年の戦略投資の方針についてお伺いします。AI、セキュリティ、ロボティクスと多岐にわたる成長領域がありますが、今年特に取り組みを加速させる領域はどちらですか？

【A1】 私の「時間」とグループの「事業の方向性」という観点でお答えします。まず私の時間は、8,000人のパートナー（従業員）のAIリスクリングと、AIを使いこなせる高度人財の採用という「人的資本強化」の面に割きます。

事業の方向性については、AIロボティクス領域、いわゆる「フィジカルAI」の領域に向かっていきます。ただし、私たちは「GMO AI&ロボティクス商事（GMO AIR）」という社名の通り、「商社」機能を担います。GAFや中国企業のような巨額の投資が必要なAIやロボットの「製造」自体は行いません。私たちの役割は、AI産業とロボット産業をつなぐ「接着剤」になることです。データセンター、ネット回線、サイバーセキュリティなど、私たちが30年間培ってきたインフラ商材を提供することで、フィジカルAIの社会実装における最大級のプレイヤーになることを目指します。（熊谷）

### ●株主還元

【Q2】 グループ子会社ではDOEの導入や総還元性向の引き上げなど還元強化が見られます。一方、GMOインターネットグループ本体は総還元性向50%を据え置いています。これは今後の成長性が子会社より高いからなのか、あるいはAI時代に向けて投資先が増えていくためでしょうか？

【A2】 当社は、新しい事業を生み出すインキュベーター的な立ち位置にあります。ビジネスモデルとしては、生み出した各事業体からの配当が収益となります。したがって、順番としてはまずグループ会社各社が成長し、業績拡大にともなう配当が本体に入ってきてから、株主還元を強化するという流れになります。現状は昨年度と方針を変えていませんが、今後入ってくる収益が増えれば、当然ながら株主還元の強化を図っていきたくと考えています。（熊谷）

【Q3】 昨年は、GMOインターネット社株式の売却後に、100億円の自社株買いを発表されましたが、どのように実入りがあれば今後も積極的に還元を行うということでしょうか？

【A3】 ご指摘のとおりです。No.1サービスの提供でお客様が笑顔になり、それを見てパートナー（従業員）が誇りを持って笑顔になり、その結果として利益が出て株主さまもハッピーになる、という笑顔の循環を作ることが私の企業家としての考えです。（熊谷）

# GMO INTERNET GROUP

●その他

【Q4】 IFRS（国際会計基準）の適用についてお伺いします。業績の見え方にどのような影響があるか現時点の見立てを教えてください

【A4】 のまずのれんの償却がなくなることです。25年12月期では24億強ののれん償却がありました。そして、インキュベーション事業にかかる公正価値評価がPL（損益計算書）やBS（貸借対照表）に反映されるようになる点が、日本基準との違いとなります。（稲垣）

以上